

タイトル：大滝口女人堂跡

大滝口女人堂は、轆轤峠（ろくろとうげ）の近く、高野山と熊野を結ぶ入口に当たります。熊野は、日本において歴史的にも精神的にも重要な地域です。何世紀にもわたり、人々は巡礼のために高野山を初めとする紀伊山地を歩いて旅をしました。女人道を旅する間、こうした巡礼者たちは、ほぼ円を描くよう約 16km の小道にそって建てられた大滝口女人堂やその他の 7 つの女人堂で、立ち止まって休憩したり、夜を過ごしたりしました。女人堂は小さなものでしたが、女人道を旅する巡礼者やその他の人々にとって重要な集会所や休憩所になっていました。

この山の森林が保護林に入れられ、野生生物保護区になる前には、定期的に木材が伐採され、寺院や女人堂などの堂の建築や修理に使われていました。保護林のために、現在では眺望が遮られています。かつて大滝口女人堂は高野山の高原地域と熊野の山々の中でも絶景とされていました。今日でも熊野の息を呑むような峰々を実際に見てみたいと思う人は、女人道を相の浦口女人堂跡に向かって、さらに 5 分間歩けば、素晴らしい眺望を得ることができます。